

埼玉県立 特別支援 学校 羽生ふじ 高等学園

(埼玉県羽生市)
平成19年開校

生徒数 93名
教職員数 51名

学校概要

農業分野に関する
学習について

卒業生の就労先

農福連携に向けて



学校概要

- 埼玉県初となる高等部職業学科単独の特別支援学校として開校して19年目
- 週15時間(週半分)を専門教科の学習時間とし、1～6限までの学習の中で「働く力」を目指す心身を育成。
- それぞれの学科で地域に根ざした活動を展開している。



**農業
技術科**
(学年20名)

農業技術科・農業コース



農業技術科・園芸コース

野菜や草花などの栽培をとおして働くための知識技能を習得、地域での校外学習をとおして就労に向けた実践的な態度を身につける



**生活
技術科**
(学年20名)

生活技術科・フードデザインコース



生活技術科・メンテナンスコース

パン・菓子製造やビル清掃等の学習をとおして働くための知識技能を習得、地域での校外学習をとおして就労に向けた実践的な態度を身につける

農業分野に関する学習について



きっかけ

- 軽度知的障害を持つ生徒の職業教育の充実の一環で平成19年に開校。埼玉県北部に位置し、農業生産の盛んな地域性も鑑み、農業技術科が設置された。
- 本校に入学する軽度知的障害の生徒の実態や能力、特性から、さらに農業実習のできる場所と規模の確保が必要になった。

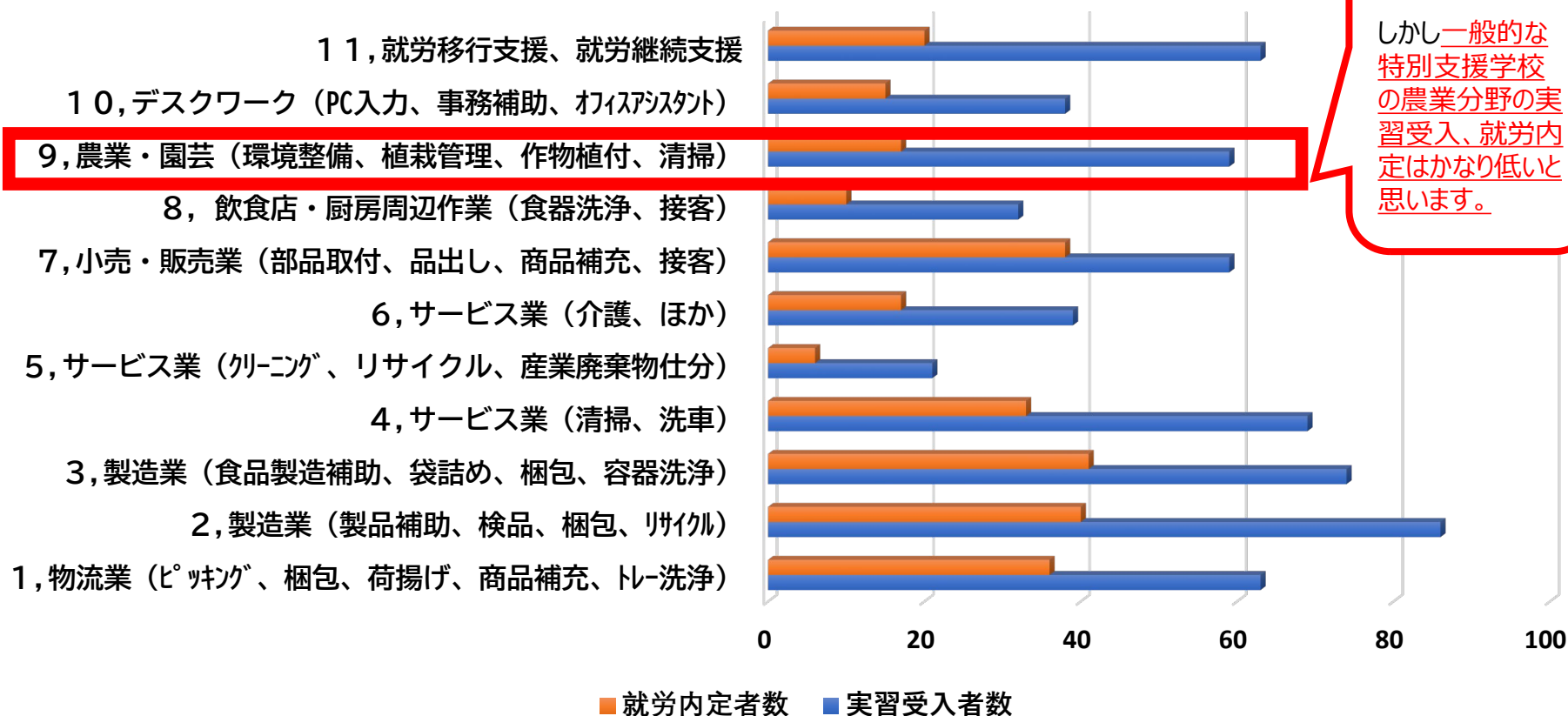
取り組み

- さまざまな農業の専門家を招き、出前授業などを実施、担当教員の資質向上を図る。
- 地元生産者からの農業指導を受け、授業における農産物の品質向上を図った。
- 生徒のコミュニケーション能力向上に向けて、農産物販売の機会を積極的に確保した。
- 農産物活用のため、生徒が企画・生産し地域の加工業者と連携、6次産業化を図る。

成果

- 農産物の売上が開校（H19）より3倍に上昇、販売会の機会の増加。
- 生徒の作業能力向上を受け、遊休農地借入を行い、農産物の安定生産へつなげる。
- 収穫した農産物の付加価値化を実現。生徒の社会参画や責任感、やりがいに。
- 積極的な農業体験により、小型車両系建設機械、フォークリフト免許等の取得を実現。
- さまざまな農業体験をとおして、生徒のコミュニケーション力向上と就労への自信になった。

卒業生の就労先について (本校開校から19年間の延べ人数)



特別支援学校における農福連携の推進に向けて必要なこと



生徒や卒業生が「働ける場所」を知ること

- 農業関連の企業や法人の存在を知ること→**実習受け入れや就労募集等のリスト化**
- 企業と生徒のマッチング→**農業就労のプラットフォームを**



生徒の特性をご理解いただくこと

- 障害特性は生徒によってさまざま→**就労前の現場実習が大切になります**
- 慣れることで力を発揮→**現場実習を重ね、生徒の可能性を探ることも大事**



より大切な「お互いを知る」こと

- さまざまなつながり→**保護者、福祉、学校が連携し、持続する就労へ**
- 「特性」も個性→**特性を強みとして発揮できるよう相互理解へ**